

君のコンさる今日も視界良好

③「遠くの目的地に行くために」 中小企業診断士 長尾康行



弊社は12月決算ですので7月からは下半期に入ります。実は上半期にやりたかったことが沢山あるのですが、日々の業務や突発的な仕事に追われてそのほとんどができませんでした。忙しかったというのは言い訳ですが、毎日、朝から晩まで休みもほとんど取らずに一生懸命に頑張った結果ですので「仕方がなかった」と思う反面、できなかったことが「悔しい」という思いもあります。上半期にやりたかった事はいくつかありますが「中期計画の策定」と「経営理念や行動指針などをまとめたクレドの策定」は最優先でやりたかったことです。どちらも今すぐになくとも日々の経営や業務に支障はありませんが、会社を大きく発展させるためにはなくてはならないものです。飛行機でも船でもすぐ近くまで行く場合には燃料や方角、速度などの最低限の情報で問題はないかもしれませんが、私が目指す目的地ははるか遠くです。遠くに行くためには多くの情報が必要ですし、目的地までにどこを経由するのか、不測の事態にも備えて複数のルートも考えなければなりません。これまでの経験や知識を活かして、実効性があり社員みんなが共感できるような中期計画とクレドを作成して、会社の成長や発展に繋げていきたいと思っています。

④「治療から予防へ」 中小企業診断士 木戸貴也

経営改善・事業再生の仕事をしていると資金繰りが切迫しており、今月の支払いも難しいといったご相談も少なくはありません。事業が順調であれば経営コンサルタントに相談することは少ないと思いますので、私たちは治療や場合によっては緊急手術の様なご支援が多くなります。しかし、人が病気になる前に予防している場合と悪くなってから健康に気を使いますのでは大きな差があるように会社でも治療が必要な状態になる前に予防できれば金策に追われることなく事業に集中できます。そのために一番大切なことは毎月健康診断を受け、小さな変化でも早急に察知して軌道修正することです。基本的には、試算表を毎月確認することなのですが、ただ数字を確認すると漠然とするので、具体的には、「予算と実績を比較する」、「前年と今年を比較する」、「売上に対する構成比を確認する」、「資金の増減理由を確認する」、「売上年計を確認する」などにより、業績を確認することが大切です。

⑤「若手会議による成長」 榎本啓嗣 (ならもと けいじ)

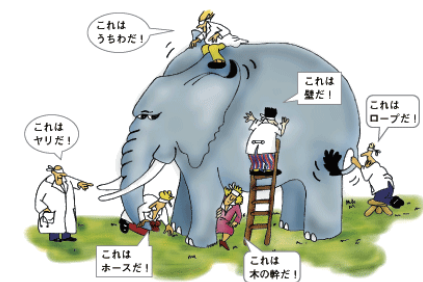
弊社では、大学インターン生を含めた20代で毎月若手会議を開いています。今年の3月頃から私が中心となり始めたものの、始めた当初は何をどうしたらいいの一手探り状態で会議を進めていました。最近、自分たちで会社に貢献できることを考え、実践することを目標として、会議に取り組んでいます。自分の考えや会議に参加してくれているメンバーの考えをなかなか上手く汲み取れていないように感じ、会議の難しさを痛感しています。これまでの経験で会議を自分が中心となり行ったことがないので、社内の全体会議を見様見真似で実践していますが、立派な会議になるにはもう少し時間がかかりそうです。それでも、自分より若い職員が積極的に発言してくれることには、感謝しながら、自らもさらに成長できるよう経験や知識を付けていければと思います。

⑥「基本姿勢である「守破離」 事務担当 松野あやか

最近、支援先様と電話・メールのやり取りをたくさんさせていただく機会があります。また、顧問先様で社内研修(社外・社内メール)の担当講師も務めさせていただきました。その中で、社外・社内に関係なく、聞かれたことに答えられているかを最近特に意識し、取り組んでいます。資料作成や依頼業務の進捗状況を聞かれた際に曖昧な返答や質問に対しての答えとなっているかが重要であると上司より指摘を受けました。もちろん、知識不足や自分の判断では答えることができない場合もあります。しかしながら、すぐに返答できない場合は、はっきりと分からないことを伝え、上司に聞く、または調べ折り返し連絡を入れることが大切であり、会社の信頼にも繋がると考えています。なぜと聞かれた場合は理由を述べる、いつと聞かれた場合は具体的な日にちで答える。当たり前のことですが、お客様や上司からの質問を理解し、正しく答えることが大切であると感じました。

⑦「群盲像を評す」インターン生 橋本大治

「群盲像を評す」これは最近、大学の授業で学んだ言葉です。この諺はインドの寓話であり、数人の盲人が像の一部に触れ自身が触れたものが何か問われると、ある人は柱だと答え、ある人は木の枝だと答え、またある人は、扇や壁、パイプなど様々な意見が飛び交ったというお話です。これには様々な解釈がありますが、私は視野が狭いと間違った判断を下すことの例えだと考えています。これは会社経営にも当てはまると考えており、思い込みや経験への固執によって間違った経営判断をしてしまうことは珍しいことではないと思います。これを避けるためには様々な視点から物事を考える自分の中の物差しの柔軟性が必要であり、この物差しの最たる例が知識だと考えています。事実、私は最近、読書や勉強をする中で自身の価値観や物の見方が変わることがありました。以前、弊社の社長がコンサルタントという職業はジェネラリストでありながらもスペシャリストでなければならぬと話していましたが、現在の私の知識は浅く、偏りもあるため、経営に関してはまだまだ盲目です。コンサルタントとして一定の信用を築くには道のりは長いと感じました。



⑧「体が資本」インターン生 秋定皇輝 (あきさだ こうき)

現在、社内で健康的な体作りが度々話題となっています。弊社の仕事上、パソコンに向かう時間が多くなり、体を動かす機会が減ってしまいます。私個人としてはステイホームを契機に体を動かす機会が減り、体重増加に伴いスーツがきつくなっていました。数kg増えただけですが、どこか体が重い感じもしていました。そこで、趣味の自転車による運動と食事制限を行うと、約1か月で効果が出始め、体も少しばかり軽く感じるようになりました。小さなことではありますが、このことから、やはり体はすべての根本なのだと感じました。体調が悪ければ精神状態も悪くなり、集中力を発揮することもできないのではないのでしょうか。そうなる仕事で正しい決断ができず、望ましい結果が残せないなど悪影響が出てしまうのではないかと感じました。自己起因のもの以外にも、ワクチンの接種が始まっていますが、未だ新型コロナウイルス感染症の猛威は収まったとは言えないなどの外的要因もあります。そして、梅雨が明けますと暑さも本格的になってくることでしょう。皆様くれぐれもご自愛ください。



発行元：株式会社フラッグシップ経営 経営革新等認定支援機関

〒542-0081 大阪市中央区南船場 4-12-8 関西心齋橋ビル 8 階

TEL : 0120-34-8776 FAX : 06-7635-8214

MAIL : info@flagship-keiei.co.jp URL : www.flagship-keiei.co.jp



株式会社フラッグシップ経営 Facebook ページ

「いいね!」お待ちしております。



株式会社フラッグシップ経営 Twitter

@flagship_keiei にて随時情報発信中!

